

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

415

教育調査研究事業（教育研究所）

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	3	生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成
施策	1	豊かな心を育む教育の推進
取組方針	2	郷土を愛するふるさと教育の推進

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	教育費		
	項	教育総務費		
	目	教育研究所費		
	大事業	教育研究所事業		
	中事業	教育調査研究事業（教育研究所）		

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	教育研究所	岡本 友尊 435-1192
事業実施の根拠法令	教育研究所条例、教育研究所規則		関連課			

1 事業内容

事業目的	（「誰・何」をどういう状態にするための事業か）		全体事業概要				
	①小3児童に、副読本「かがやく和歌山市」を配付し、子どもの郷土に対する誇りや愛着を育成する。 ②教育論文・実践を募集し、教育水準の高揚を図る。		①小学校3年生の児童に、副読本「かがやく和歌山市」を配付し、和歌山市について学びながら、子供の郷土に対する誇りや愛着の心を育成する。 ②教育論文・実践を募集し、個人並びに学校・グループの教育研究を奨励し、和歌山市の教育水準の高揚を図る。				
事業内容			平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
			○研究所員活動（6テーマ） ○「かがやく和歌山市」の配付 ○教育論文の募集 65点応募	○「かがやく和歌山市」の配付 ○教育論文の募集	①小3児童に、副読本「かがやく和歌山市」を配付し地域学習に生かす。 ②教育論文・実践録を公募、研究奨励・発信を行う。	①小3児童に、副読本「かがやく和歌山市」を配付し地域学習に生かす。 ②教育論文・実践録を公募、研究奨励・発信を行う。	①小3児童に、副読本「かがやく和歌山市」を配付し地域学習に生かす。 ②教育論文・実践録を公募、研究奨励・発信を行う。

2 事業コスト

事業費等（千円）	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	2,340	2,277	1,676	1,679	1,617	1,599	1,631	0	0	0	
伸び率（%）	△0.6%	△4.4%	△28.4%	△26.3%	△3.5%	△4.8%	0.9%	△100%	△100%	0%	
人件費	正規職員	3,736	3,736	1,436	1,436	1,439	1,439	1,439	0	1,439	0
	正規職員以外	0	161	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	3,736	3,897	1,436	1,436	1,439	1,439	1,439	0	1,439	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源（税等）	2,340	2,277	1,676	1,679	1,617	1,599	1,631	0	0	0	
所要人数（人）	正規職員	0.47	0.47	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.00	0.18	0.00
	正規職員以外	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	印刷製本費 1,617（千円）										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	
			目標値	実績値	達成度（%）	目標値	実績値	達成度（%）
教育論文応募点数		点	70	69	98.6%	70	70	
			70	53	75.7%	70	45	64.3%
			70	0	0%	70	0	0%
副読本配付率		%	100	100	100%	100	100	
			100	100	100%	100	100	100%
			100	0	0%	100	0	0%

4 事業の評価

評価基準				
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない
				減少している
				見直しが必要
				市が行う必要性は薄れている
				緊急性は薄い
				できない
				達成していない (70%未満)
				貢献度は低い
				できる
				見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	各事業は計画通り実施した。教育論文の応募点数は、ここ数年採用された若い先生からの応募が多く、自己の実践を残し、振り返るために教育論文の事業が根付いてきたと言える。
見直し・改善内容	社会科副読本については、子供の学習がより一層広がるよう見直し、改善を図るとともに、小学3年児童への配付を継続する。